

草原維持管理支援組織の形成

1. 既存ボランティア組織の実態について

(阿蘇グリーンストック 野焼きボランティア活動を事例として)

財団法人阿蘇グリーンストックにより 1998 年から実施されている野焼きボランティア活動について、登録された野焼きボランティア会員の構成を示す基礎データを取りまとめると、次のとおりとなる。

なお、本年の野焼きボランティア講習会への参加者は地元新聞による宣伝効果もあり、300 名以上の参加となった。

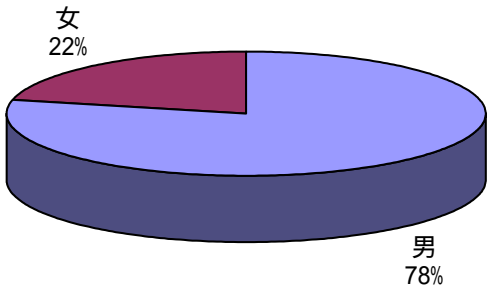
< 概況 >

- ・ ボランティアの男女別内訳は、男性が全体の約 8 割を占める。
- ・ 年齢構成は、50代、60代が多く、過半数を超える。
- ・ 全体の 9 割強は九州からの参加者であるが、中には本州からの参加者もいる。
- ・ 九州の参加者のうち半数以上が熊本県下で、次に福岡県が 4 割弱となる。
- ・ 熊本県からの参加者は熊本市からの参加者が過半数を超え、地元阿蘇郡からは 1 割強である。

ボランティアメンバーの男女別内訳

性別	人数
男	343
女	94
合計	437

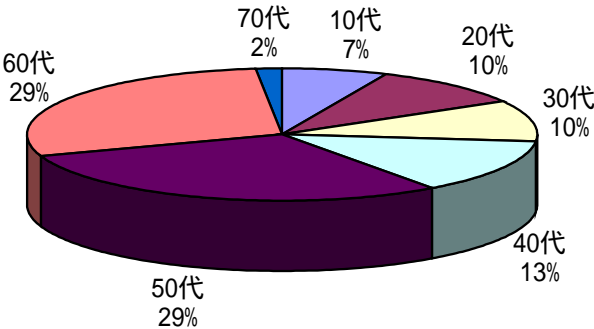
ボランティアメンバーの男女構成



ボランティアメンバーの年齢内訳

年齢	人数
10代	11
20代	17
30代	17
40代	22
50代	50
60代	48
70代	3
合計	168

ボランティアメンバーの年齢構成

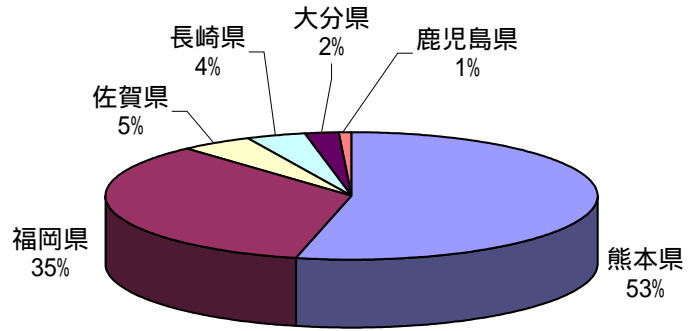


* データは 2000 年度、2003 年度メンバー

ボランティアメンバーの居住地内訳

エリア	県名	人数	
九州	熊本県	218	全会員の 48%
	福岡県	141	全会員の 33%
	佐賀県	20	
	長崎県	16	
	大分県	9	
	鹿児島県	3	
	小計	407	全会員の 94%
九州以外	山口県	5	
	広島県	1	
	兵庫県	3	
	大阪府	3	
	奈良県	1	
	東京都	4	
	埼玉県	4	
	神奈川県	2	
	栃木県	1	
	長野県	1	
	小計	25	全会員の 6%
合計	432		

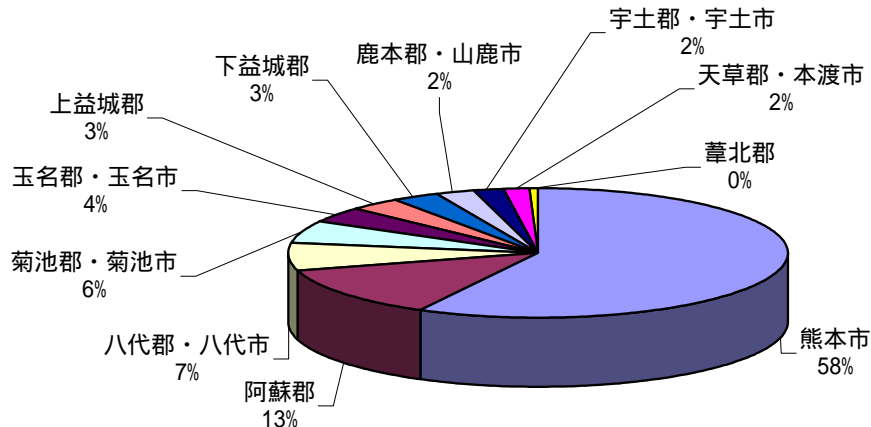
九州内におけるボランティアメンバーの居住地



熊本県内メンバーの居住地内訳

郡市	人数	郡市	人数
熊本市	123	上益城郡	7
阿蘇郡	27	下益城郡	7
八代郡・八代市	15	鹿本郡・山鹿市	5
菊池郡・菊池市	12	宇土郡・宇土市	4
玉名郡・玉名市	8	天草郡・本渡市	4
		葦北郡	1
		合計	213

熊本県内メンバーの居住地内訳



2. マスコミ等へのヒヤリング調査（中間報告）

ヒヤリングの概要

阿蘇の草原維持活動支援に関し、主としてメディア関係へのヒヤリングを行った結果を以下にまとめた。

ヒヤリング対象とヒヤリングの内容は以下に示すとおりであるが、ヒヤリングそのものは各担当者の職責や個人的な立場からの意見を含めて、総括的な議論を行うような形式で進行した。

<ヒヤリング対象>

- ・ 熊本日々新聞社
- ・ 西日本新聞社
- ・ タウン情報くまもと
- ・ シティー情報ふくおか
- ・ 福岡市 NPO・ボランティア支援センター「あすみん」

<ヒヤリング内容>

- ・ 阿蘇や阿蘇の草原維持ボランティア活動の認知度について。
- ・ 今後のボランティア活動に対して、さらなる動員の可能性や動員するための広報活動のあり方、参加するための動機付け等について。
- ・ 参加するための条件や問題点等について。（宿泊、交通ほかの条件、及び女性、高齢者の参加について）

ヒヤリング結果はヒヤリング対象者ごとにとりまとめた上で、各々の意見ごとに分割し、KJ法により意見の集約と関連性のとりまとめを試みた。（別紙参照）

ヒヤリング結果の総括（メディア関係）

ヒヤリング結果を総括すると、以下のようにまとめることができる。

1) 現状認識と課題

阿蘇そのものや草原維持支援ボランティアの現状認識と、ボランティアに関わる世代論、現在のボランティアに対する課題についての意見を集約する。

a. 現状認識

- ・ 阿蘇そのもの、あるいは阿蘇の草原に対する認識は非常に大きいですが、それがどのようにして維持されているかについてはほとんど認識されていない。
- ・ 野焼きについては風物詩としては多くの人が認識しているが、それが何のために誰がやっているのかということについてはほとんど知られていない。
- ・ 阿蘇の草原維持が危機的状況にあるということを知っている人でも、具体的に何がどのようにあぶないのかという情報は得られていない。
- ・ 野焼き支援ボランティアに関する認識度は非常に低い。

b. ボランティアに関する世代論

- ・ 50～60代、は生活に余裕があり、草原維持支援に対する達成感や満足感がボランティア参加への動機付けになっている。（したがって参加者が多い）
- ・ 30～40代は自分の仕事や生活が手一杯で、参加する余裕がない。
- ・ 若者は生きる方向性を探すのに迷っている。またボランティアに参加するための情報や興味、自分にとっての意味づけなど、どうしていいのかわからないでいる。

c. 草原維持支援ボランティアへの課題

- ・ 野焼き支援ボランティアのチラシやグリーンストックのホームページを見ても何のために

何をやるのかといったことが分かりにくい。

- ・若い人が参加するには経済的負担が大きい。しかしボランティアの位置づけなどが納得できれば参加する人は多いと考えられる。
- ・多くの人に参加してほしいが、誰でもやれるわけではない、というのは矛盾するのではないか。

2) ボランティア募集に関する情報の作り方と今後の展望

今後ボランティアを積極的に募集していくにあたりどのような情報を作り流していくべきか、またメンバー拡大の可能性や拡大するにあたっての様々な方策やアイデア等について意見を集約する。

a. 情報の作り方

- ・写真を使ったり絵本方式にするなど分かりやすく興味を引くような情報を作る必要がある。
- ・基礎的情報に加え必要に応じて詳細な情報も提供し、より幅広く情報を提供する必要がある。
- ・身近な人や地元の人などによって、リアリティーのあるアピールをすることが必要である。
- ・地元の人びととの様々な交流を通してアピールすることも効果的である。
- ・新聞やタウン誌によって広報を行っていくとともに、企業レベルで参加を呼びかけていくことも効果がある。

b. 拡大の可能性

- ・草原維持の必要性を理解し、活動に共感できれば参加する人は多いのではないかと考えても楽しいとか自分で納得できれば参加意欲はあると考えられる。
- ・安全性のレベルや様々な支援活動のメニューがあれば、より多くの人に参加できるのではないかと。
- ・子供たちにとっては遊びを通して阿蘇に親しむということが効果的である。

c. ボランティア作業の複合化とファミリー対応

- ・若い人やファミリーには楽しさが必要で、野焼き・輪地切り以外の楽しいメニューがセットになっていると参加しやすい。(食事、温泉、草泊まり、スローライフなど)
- ・無理に作業のメニューばかりではなく、遊びのメニューや野焼きを安全に見ることが出来る場所などがあればファミリーでも参加できる。
- ・参加することへの特典があればありがたい。(宿泊、食事の割引など)
- ・ボランティアだけではなく様々なイベントを組み合わせるとどうか。(お祭りやバサー、赤牛フェアなど)
- ・女性にとっては、トイレの問題はぜひ解決しておいてほしい。

d. 今後の展望

- ・草原維持だけでなくそれに関する水循環、畜産と食の問題など、「環境」「自然」「農畜産業」といったことについて複合的に情報を提供できれば、より効果的にアピールでき子供たちの学習にもなる。
- ・草原維持支援活動が効果的に発展すれば、阿蘇地域の農畜産業の新しい後継者育成につながるのではないかと。

3 . ボランティア参加意向調査（中間報告）

【目的】

野焼き、輪地切りボランティア活動をはじめ、日常的な牧野管理作業に対するボランティア活動への参加意向について、ボランティア活動経験者、環境関係 NPO、大学を中心に、広く一般からアンケート調査を通じて意向を把握する。

【対象】

- ・ 野焼きボランティア参加者
- ・ 野焼きボランティア講習会参加者
- ・ 熊本（福岡）地区の環境 NPO
- ・ 熊本（福岡）地区の環境関連の大学学部
- ・ 野焼きボランティア等周辺的一般人
（2月末現在の回収数は、約500サンプル）

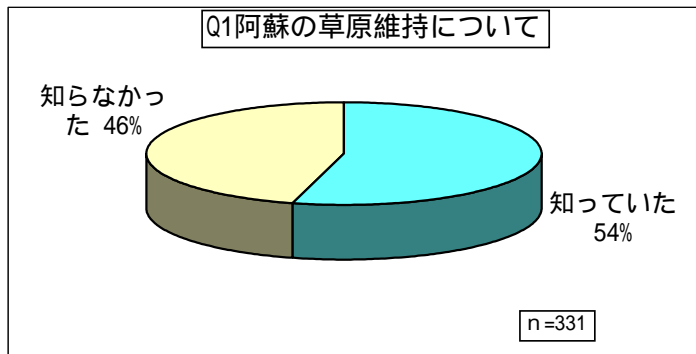
【内容】

- ・ 阿蘇の草原維持およびその状況に対する認識
- ・ 野焼き・輪地切りボランティア活動の認知度
- ・ 野焼き・輪地切りボランティアへの参加経験
- ・ 野焼き・輪地切りボランティアの感想・意見
- ・ 野焼き・輪地切りボランティアへ参加しない理由
- ・ 野焼き、輪地切りのみならず日常の牧野管理作業への参加意向
- ・ ボランティア活動への参加希望時期、参加への条件
- ・ ボランティア総合窓口の設置への意見
- ・ ボランティア活動を通じた阿蘇地域の人々との交流意向

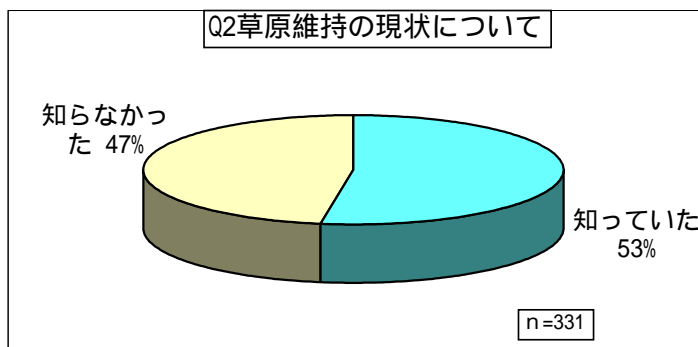
【結果概要】

- ・ 阿蘇の草原維持およびその状況認識については何とか過半数は理解。
- ・ 野焼き・輪地切りボランティアの認知度も同上。
- ・ 野焼き・輪地切りボランティアへの参加経験者は概ね良好な感想をもつ。
- ・ 野焼き・輪地切りボランティアの未経験者については、7割弱が参加意欲あり。
- ・ また、これまで参加してこなかった理由の第一に「参加方法がわからなかったから」という理由があげられている。
- ・ 参加可能な支援活動としては、野焼き、輪地切りがやはり上位を占めるが、採草作業ほかの作業についてもある程度の参加意欲を示している。
- ・ ボランティアの総合窓口の設置への希望が7割強と高い。
- ・ 阿蘇地域の方々との交流も希望する割合が6割と高い。

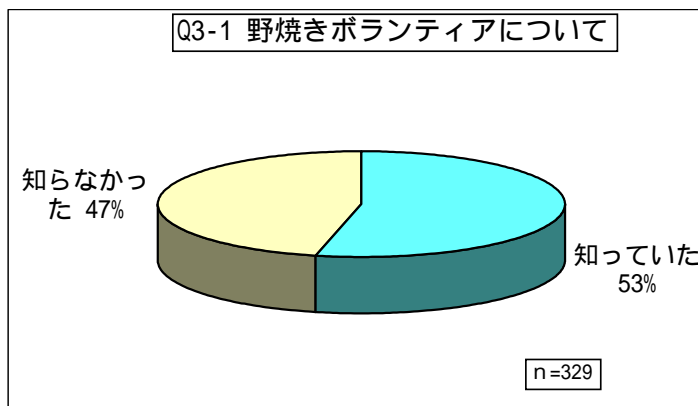
問 1 阿蘇の草原が野畜産業に従事する人々によって維持されていることを知っていたか



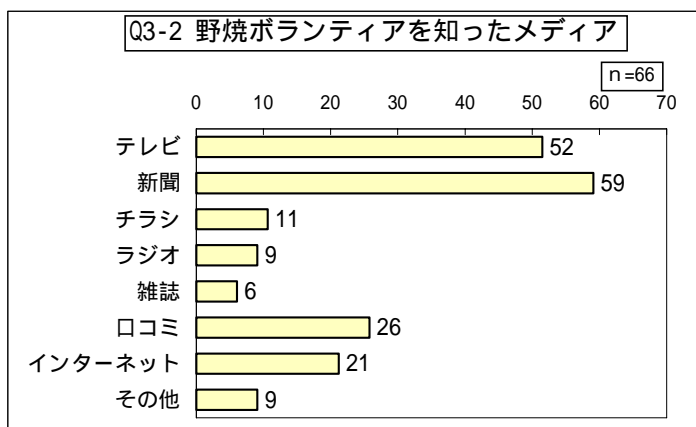
問 2 草原維持が困難になっていることを知っていたか



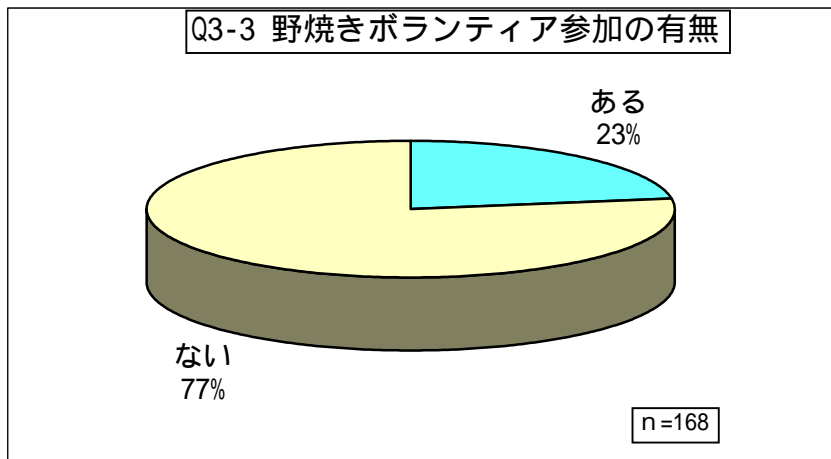
問 3-1 野焼き・輪地切りボランティアの認知度



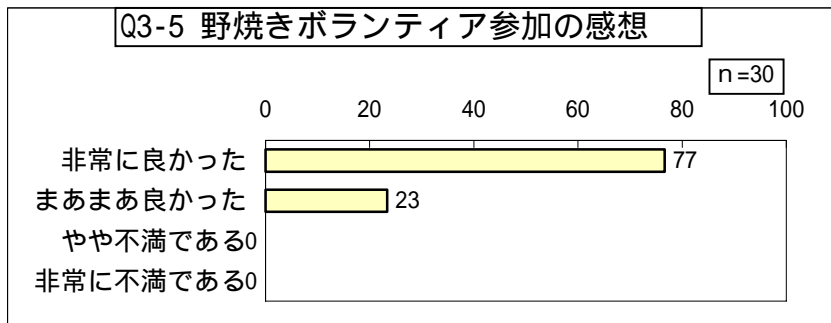
問 3-2 野焼きボランティアを知ったメディア



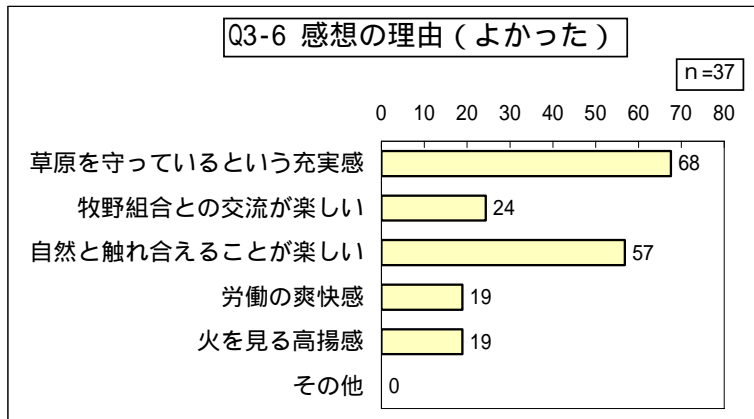
問 3-3 野焼き・輪地切りボランティア参加の有無



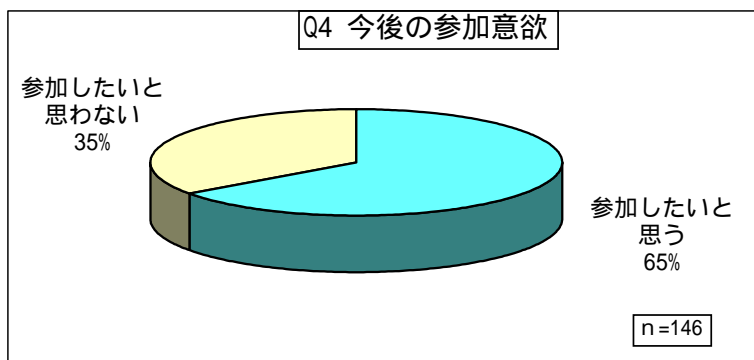
問 3-5 野焼きボランティア参加の感想



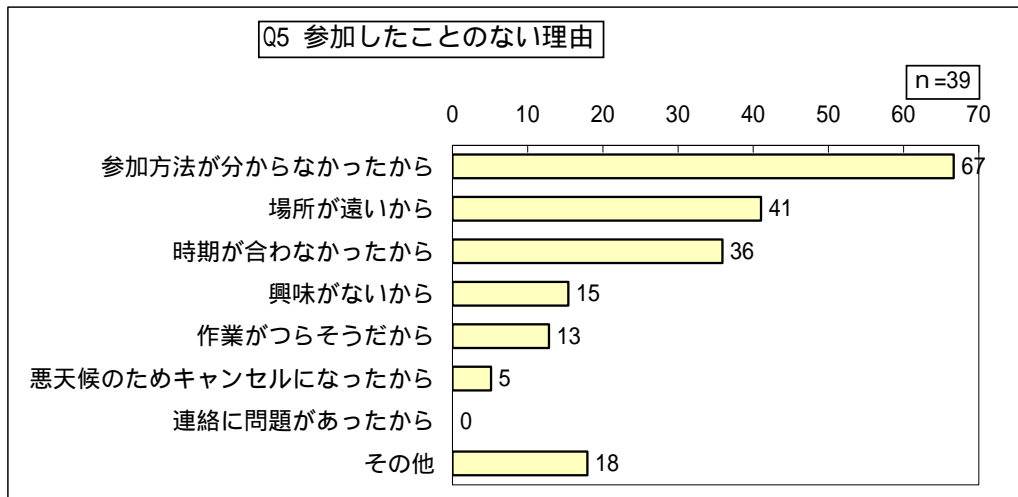
問 3-6 野焼きボランティアに参加してよかったと思う理由



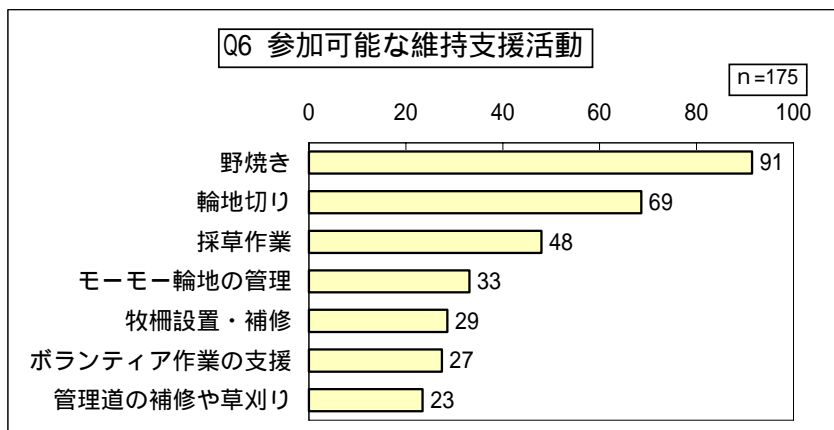
問 4 野焼き・輪地切りボランティアを知らなかった人の、今後の維持活動への参加意欲



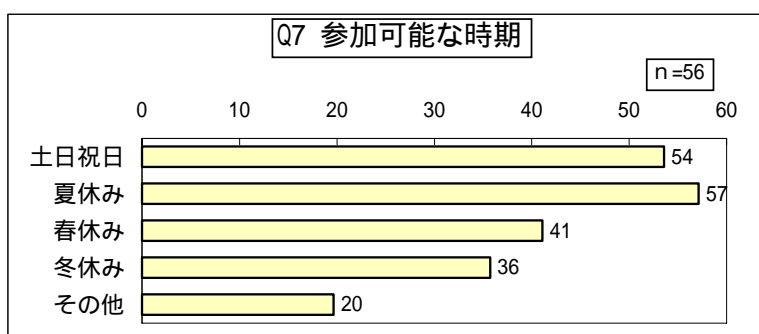
問5 野焼き・輪地切りボランティアを知っていたが、参加したことがない理由



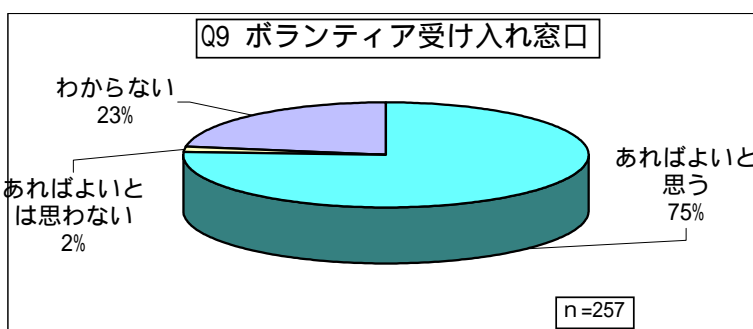
問6 参加可能・参加したいと思う草原維持活動



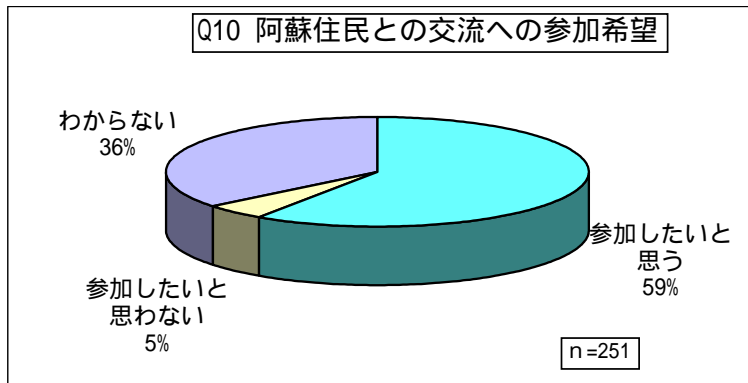
問7 草原維持活動に参加できる時期



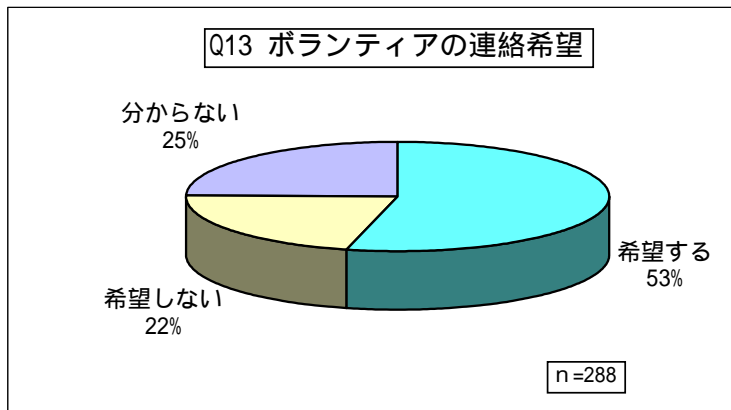
問9 ボランティア受け入れのための総合窓口の希望



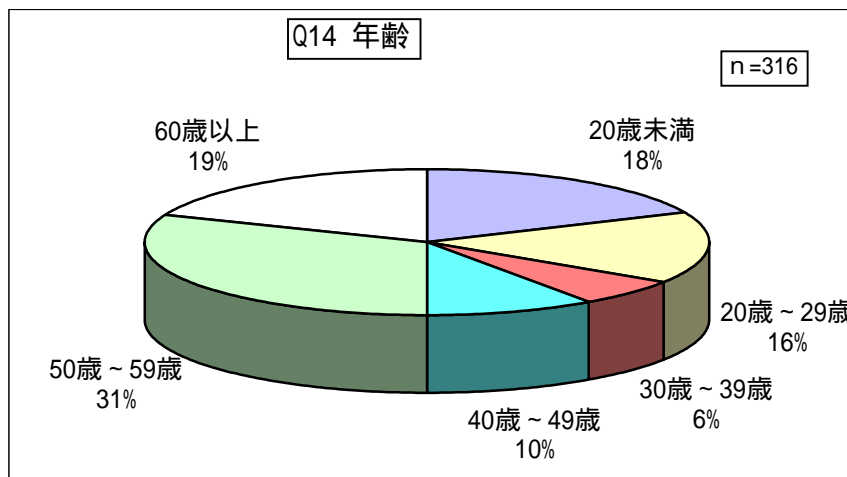
問 10 阿蘇の草原維持に関わる人々との交流への参加を希望するかどうか



問 13 草原維持活動のボランティアの募集があった際、連絡を希望するか



問 14 年齢



(参考：アンケート票)

平成 16 年 2 月

各位

環境省九州地区自然保護事務所

草原維持活動支援組織の形成に関するアンケートご記入のお願い

阿蘇の草原は平安時代から続くといわれる農畜産業のための放牧、採草、野焼きにより維持されてきた「半自然草原」といわれています。阿蘇の草原では、これらの人為的な活動が行われなくなると、草原が森林に変わり草原が失われてしまいます。

阿蘇では、近年の農業形態・生活様式の変化、農畜産業に携わる方々の高齢化などの理由により、草原の維持管理が困難になっており、草原の荒廃・喪失が進んでいます。このような背景の中で、人手と労力を要する野焼き¹と輪地切り²を支援するため、1998年より野焼きボランティアの活動が開始されています。阿蘇の草原を維持するには、これらの野焼き・輪地切りの作業を支援することのほか、草原維持に大きな役割をはたしている農畜産業そのものに関わる作業を支援することが必要となってきています。

- 1 野焼き：草原に火を入れて焼くこと。樹木が草原に侵入するのを防ぐために行われるもので、草原を維持するために重要な作業。
- 2 輪地切り：野焼きを行う際に、周辺の樹林地への延焼を防ぐための防火帯づくりのこと。

このアンケートは、みなさんの阿蘇の草原を維持することについての関心や、ボランティアとして参加していただけるための条件等を調査することで、さらなる阿蘇の草原維持に役立てさせていただきます。

本年3月中旬には、みなさんからの意見、阿蘇の農畜産業経営者、その他関係者からのご意見を参考に、新たな草原維持管理活動の実証試験を行う予定です。関心のある方は、阿蘇草原再生のホームページ (<http://www.aso-sougen.com/>) をご参照ください。

敬具

調査票のご記入にあたって

- ・このアンケートは一部を除き選択式です。設問毎の指示に従い該当する番号に をつけて下さい。また該当する回答がない場合は、その他の欄にご記入ください。
- ・切について：返信用の封筒に入れ、3月10日頃までに日本グラウンドワーク協会アンケート事務局までご返信ください。

なお、調査についてのお問い合わせは以下にお願いいたします。

調査の趣旨について

環境省自然環境局九州地区自然保護事務所

担当：佐々木 TEL 0967-34-0254

調査の方法などについて (財)日本グラウンドワーク協会

担当：松下・平 TEL 03-5645-8539

問1 阿蘇の草原が農畜産業に従事する多くの人々の力によって維持されていることを知っていましたか。(1つに)

1. 知っていた 2. 知らなかった

問2 現在農業形態・生活様式の変化や高齢化のために阿蘇の草原維持が困難になっていることを知っていましたか。(1つに)

1. 知っていた 2. 知らなかった

問3 地元の農畜産業の関係者のみでは阿蘇の草原を維持する事が難しくなっているため、(財)阿蘇グリーンストックでは1998年から野焼き・輪地切りボランティアを行っています。

問3-1 野焼き・輪地切りボランティアを知っていましたか。(1つに)

1. 知っていた 2. 知らなかった → 問4にお進みください

問3-2 野焼き・輪地切りボランティアについてどのようなメディアを通して知りましたか。(複数に)

1. テレビ 2. 新聞 3. チラシ
4. ラジオ 5. 雑誌 6. 口コミ
7. インターネット 8. その他()

問3-3 野焼き・輪地切りボランティアに参加したことがありますか³。(1つに)

1. ある 2. ない → 問5にお進みください

3: 毎年春・秋に行われる野焼き支援ボランティア初心者体験・研修会を除く

問3-4 野焼き及び輪地切りのそれぞれの参加回数をお答えください。

1. 野焼き _____ 回 2. 輪地切り _____ 回

問3-5 野焼き・輪地切りボランティアに参加した感想をお選びください。(1つに)

1. 非常に良かった
2. まあまあ良かった

3. やや不満である
4. 非常に不満である

問3-7にお進みください

問3-6 問3-5で“非常に良かった”または“まあまあ良かった”と答えた方に伺います。理由をお答えください。(2つまでに)

1. 草原を守っているという充実感 2. 牧野組合⁴との交流が楽しい
3. 自然と触れあえることが楽しい 4. 労働の爽快感
5. 火を見る高揚感 6. その他()

4 牧野組合: 阿蘇の草原のほとんどは、集落ごとに定められた入会地となっている。入会地を利用できる入会権者はそれぞれ牧野組合を組織し、入会地を管理している。

問3 - 7 問3 - 5で“ やや不満である ”または“ 非常に不満である ”と答えた方に伺います。

理由をお答えください。(2つまでに)

- 1 . 作業が肉体的につらいから
- 2 . 阿蘇は遠いから
- 3 . 危険な目にあったから
- 4 . 天気が悪かったから
- 5 . 段取りが悪かったから
- 6 . その他

(具体的に)

問3 - 8 ボランティアに参加する上で改善してほしい点は何ですか。(自由回答)

問4 問3 - 1で 野焼き・輪地切りボランティアを知らなかったと回答した方々に伺います。今後このような作業に参加してみたいと思いますか。(1つに)

1 . 思う → 問6にお進みください

2 . 思わない → 問13にお進みください

問5 問3 - 3で野焼き・輪地切りボランティアに参加したことがないと答えた方に伺います。

理由をお答えください。(3つまでに)

- 1 . 参加方法が分からなかったから
- 2 . 悪天候のためキャンセルになったから
- 3 . 時期が合わなかったから
- 4 . 興味がないから
- 5 . 連絡に問題があったから
- 6 . 作業がつらそうだから
- 7 . 場所が遠いから
- 8 . その他()

問6にお進みください



問6 阿蘇の草原を守るためには、野焼きや輪地切りだけでなく農畜産業全般への支援が必要と言われています。現在のところ以下のような活動の支援が可能であると考えられますが、今後、阿蘇の草原を守る上であなたが参加したい、または参加できると思われる草原維持活動に つけてください。(該当するものすべてに)

作業	作業内容
1. 野焼き	草原を維持するため3月に草原を焼く作業。作業としては延焼を食い止めるための火消し棒を使った消火作業、昼食や飲料水の運搬といった補助作業を行う。
2. 輪地切り	野焼きの際に延焼を防ぐための防火帯づくり。9～11月に行われ、植林地の横10m程度の草を刈り、切った草を輪地の中央に寄せる作業を行う。補助作業としては刈払い機の燃料運搬などを行う。
3. モーモー輪地の管理	モーモー輪地とは電気牧柵で囲った中に牛を放牧し、草を食い詰めさせることで輪地をつくることを指し、作業としては電気牧柵の設置・撤去、水場の設置を行う。広い輪地によって、安全に野焼きを行うことができ、草原維持作業を楽にすることができる。
4. 牧柵設置・補修	放牧家畜が脱走しないようにするための柵を、設置・修理する作業。柵の種類は鉄条網、電気牧柵など様々。牧柵が設置され、放牧が継続されることにより、草原の維持につながる。
5. 採草作業	冬場の餌や堆肥として使うために草を刈り、集める作業。適期に採草することにより、貴重な草原植物が守られる。
6. 管理道の補修や草刈り	広い牧野を効率的に移動するために設けられている管理用道路の補修や草刈りを行う。具体的には荒れた部分に砂利を敷いたり、道路両脇の草刈りなどを行う。草原とふれあうイベントなどに有効活用される。
7. ボランティア作業の支援	ボランティア活動の開催や変更事項などの電話連絡等の事務作業、作業当日の機材の準備・運搬などのボランティア活動自体を支援する作業。ボランティア活動をスムーズに進めるために欠かせない存在。

問7 ボランティアに参加するとしたら時期はいつ頃がいいでしょうか。(該当するものに)

1. 土日祝日 2. 夏休み 3. 春休み
4. 冬休み 5. その他()

問8 参加するにあたっての条件はありますか。

問9 ボランティア受け入れのための総合窓口があればいいと思いますか。

1. 思う 2. 思わない 3. わからない

問10 阿蘇地域の草原にかかわる人たちとの交流会に参加したいと思いますか。

1. 思う 2. 思わない 3. わからない

問11 問10で“阿蘇地域の草原に関わる人たちとの交流会に参加したい”と回答した方に伺います。どのような交流をしてみたいですか。具体案があればご記入ください。

問12 その他自由回答（草原維持活動への期待等）

問13 回答者ご本人について伺います。

ボランティアの募集があった時に連絡を希望しますか？

1. 希望する 2. 希望しない 3. 分からない

連絡がほしい場合はご住所・お名前・電話番号を記入してください

住所（〒 - ）

名前

電話番号（ - - ）

年齢をお答えください

1. 20歳未満 2. 20歳～29歳 3. 30歳～39歳
4. 40歳～49歳 5. 50歳～59歳 6. 60歳以上

性別をお答えください

1. 男 2. 女 （未婚・既婚）

居住地をお書きください。（県、市町村まで）

県

市町村

職業をお答えください

1. 自営業 2. 会社員 3. 公務員 4. 学生
5. 主婦 6. 無職 7. その他（ ）

ご協力ありがとうございました。

4 . 草原維持管理支援活動実証試験（予備試験）

阿蘇の草原を守るため、ボランティアによる支援活動の実証予備試験を行います。これは現在行われている野焼き・輪地切りの支援に限らず、草原維持に大きな役割を果たしている農畜産業そのものを様々な人々の協力を得て、支援していこうというものです。

約 20 名の参加を予定

ボランティア経験者～未経験者

若者～壮年層まで幅広く

【実施日】 平成 16 年 3 月 17 日（水）

【作業内容】 牧野の牧柵（鉄条網、電気柵）の設置・補修

【集合時間・場所】 午前 9 時 45 分より小堀牧野入り口前に集合してください。

（国立阿蘇青年の前入り口近く） 集合場所に目印を用意いたします。

【参加費等】 ・参加費は必要ありません。タオル、軍手、水筒等を持参してください。

・交通費を支給いたします。また、お弁当と温泉入浴券を用意します。

【留意事項】 ・大雨の場合は延期します。当日朝、ご連絡いたします。

・また、当日まで野焼きが完了していない際も延期となります。

【プログラム】

時間配分	作業	内容	説明者
9:45 ~ 10:00 (15分)	受付開始 ネームカード配布	・受付で出欠をチェック ・ネームカードを自分で記入する	事務局 阿蘇 GS GW 協会
10:00 ~ 10:30 (30分)	オリエンテーション (3分) (3分) (6分) (3分)	・主催者挨拶 ・受け入れ側の挨拶 ・参加者の自己紹介 ・事務局紹介	環境省 小堀牧野 阿蘇 GS GW 協会
	作業内容の説明 (15分)	・作業内容とスケジュールを説明する	小堀牧野
10:30 ~ 12:30 (120分)	実作業	・作業のデモンストレーション ・鉄条網補修、電気柵の設置	
12:30 ~ 13:15 (45分)	昼食	・お弁当を用意します	
13:15 ~ 14:45 (90分)	実作業	・鉄条網補修、電気柵の設置	
14:45 ~ 15:30 (45分)	ふりかえり	・参加者アンケートの実施	

この実証試験は、環境省による阿蘇自然再生事業推進計画調査の一環として行われるものです。事務局は、(財)日本グラウンドワーク協会と(財)阿蘇グリーンストックによって運営します。